



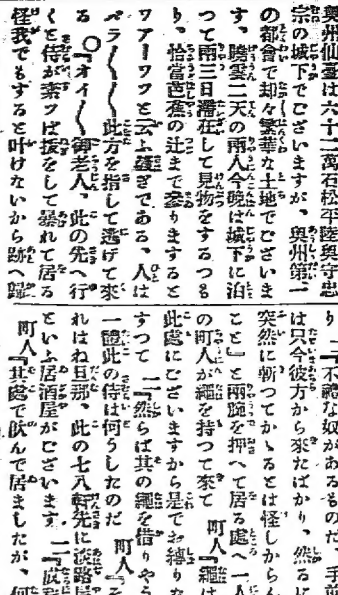






第二百七回

桃川如燕口演  
浪上義三郎速記



なんだい。「ハイ左様でございますか。二天や、成程大した騒ぎだ。怪我でもするぞ叫んからあの木戸際に行つて居りませう」と兩人は木戸際に來て立つて居る二天大勢の者を追まけながら一人の若侍真蒼な顔色をして、成程大刀を振り冠つてまげて來た木戸際に居りました二天を望んで、待たれ召捕れるものなら召捕て見ろ」と突如右の大刀を持つて二天に斬てかゝつた。「何をなさる」と身を交して空を切らせ、取り直さうとする手元へ飛び込み手をかへして利腕を打つたから真剣をボロリ取り落す。待て残念と組付て來るをエヒと一瞥叫んで二三間歩ふへ投付けた。起らうとする處を二天は其の上に跨りか氣に叶らないことがあつたと見て、突如引抜く二天路星六兵衛を二ツに斬てしまつたので、「それ怪しからん奴だ。町人」スル二天路の女房が其處へ飛んで來て舞囃付たのを首を斬り落しそして七八歳なる女の子が泣出して其の子供まで斬てしまつたので、「それでは」然うまで殺したのである。町人「然う

[illegible]

まして「こゝにやらう」語しては叶んぞ  
お前が語するをなら免して遣りませう  
と此の侍を呼起した時に、如何  
さ酒の上か真意になつて居た若侍  
其處へ兩手を突いて居る。曉雲は曉  
アイヤお武家、其語には親御はあつ  
てかた。左様、兩親がございます。曉  
其語は御酒が悪いな、曉雲御兩親も  
御心配を爲すつてお在であらう、今  
繩を打つて引出したらは主親の恥辱  
依て此儘お掛け申すを以來餘り深く  
御酒を召さんやうになさい。侍深  
に恥入りましたんやうに、此後には好  
な酒ではござるが一滴も頂きません  
曉「好きな酒だから飲すには居られ  
まい、然し一升の處は五合、五合飲  
平塚名産玄武栗は旭町一方武  
土座にお送ります。只今は栗の好期一  
でありまして電話一八五番にお掛け  
下さいれば直ぐ配達致します

うと思つた所は二合になすつて内は  
に飲んで居れば差支ない、酒と云ふ  
ものは少しく飲めば樂になり多分に  
飲めば害になる、其の心得で以來は  
お嗜みなさい。侍「お断ございます  
る」と悄然として向ふへ行く。風園  
に見て居た見物は盛心をして居りま  
する。スルと見物の中に五十鈴軒の  
大の海へ間が二の櫓子を見て居た

か「六」何に斬られやアしませんが、「二」お前の内儀や子供が斬られたと云ふが「六」何に其處へとはございせん」「二」ハナニカ「二」オイ、お前であつた御米倉町朝市場通仁濟病院外科内科花柳病入院院急電電話二九三四番上野醫院

の男が其處へ入つて来て。○「エー旦那、私は淡路屋六兵衛でございますが、手前共の家から事が始まつて纏付を出したくはございません、何うか御辨別下さいまし。」「フーンが前が淡路屋六兵衛か。」六「左様で。」「お前は眞二ツに斬られたと云ふではない。」

公立普通学校は、新築中の處此程全部の落附な  
りたれ、一月十二日新築落成式を挙行すべ

[illegible]

なるをこゝろ決して耐しとせず現に黃  
 州消防組合の組頭を勤めてゐる營業  
 科目は日鮮人向雜貨なるが最近に於  
 坊が喜ぶ  
 木村屋バンに (宣統元年七月)  
 孫(てや)りましよキヤマルを  
 ては年采の果樹栽培に成功し果實人  
 等を商てゐる一意専心顧客に信用  
 を賣ると云ふを以て本旨としてゐ  
 るが顧客取信用の日に増加し同店  
 の隆盛蓋し京義治線又風指の一人で  
 あらう  
 ▲中井商店 京義線黃海道一帶に於  
 て最も目覺しき活動家を學べければ  
 同店は東京盛草ライシヨクサン旗印  
 石油會社の特約店として其營業區域  
 金黃海道に渡り一箇年の賣捌商盛草  
 一千五百捆石油三千五百捆なりと云  
 ふ人數少く黃州にも店兩常に客の出  
 入繁く將來黃海道内の増進と共に益  
 々盛大に赴くであらう  
 月さらさら一日元!!!  
 ▲月やく滞りたる  
 人直ぐ歸船主  
 ▲別に飽く如く  
 ▲月經不順を調へ

入るものは必ず何物か買ふて歸らざるを得ないといふ云々状況であるが然うかと思へば商賈非月規律あり節度あり然して奢費信用を主義としてゐる一寸両合には見られぬ奢費振りを示すは

森口商店 森口商店の主人森口公繁氏は舊川賀家の中流古豪族にてこれまで可也公共の爲めに盡し

●**黃州實業家案内**  
 ●**吉星商店** 吉星商店は朝鮮煙草の特約店として將又黃州藥貨商の重鎮として京義線一帶に知られてゐる主人吉星金次郎氏は商人の本城たる上方出身者にして常に店頭に於て愛

入港新羅丸  
號六名主浦清吉清水馬行、阿さく、榮吉  
同すて、熊谷廣榮けい、小林榮、馬野千代、

祝黃州之發展

黃州衛生病院

醫師 羅振煥

一般治療。入院隨意。

祝黃州之發展

井內九郎八

黃州城內

祝黃州之發展	祝黃州之發展	祝黃州之發展	祝黃州之發展	祝黃州之發展	祝黃州之發展
木下理髮店	猪原龜吉	志賀恒彦	中井商店	黃州療病院	祝黃州之發展
黃州城內	黃州城內	黃州城內	黃州城內	院主 森方正	祝黃州之發展
雜貨商					祝黃州之發展

黃州城內

祝黃州之發展

岩崎信平

黃州邑內

祝黃州之發展

森井式次

祝黃州之發展  
西富子  
黃州城內

祝黃州之發展

荒內眞佐治

[illegible]

御旅館	黃州館	黃州城內
祝黃州之發展	天理教々師	岡本平之進
祝黃州之發展	高岡	三根長七
祝黃州之發展	黃州邑內	松月
旅館	高岡	三根長七

祝黃州之發展

時計販賣  
眼鏡蓄音器  
黃州城內

藤本一也堂

祝黃州之發展

米糴穀貿易  
委託賣買商  
（福）  
河村商店  
京義線黃州

祝黃州之發展

諸雜貨  
米穀商  
（三）  
登井商店  
黃州城內

祝黃州之發展

手嶋自轉車店  
黃州城內

祝黃州之發展

祝黃州之發展  
森口筆吉  
黃州坡內

祝黃州之發展  
吉尾金次郎  
黃州坡內

祝黃州之發展  
西洋洗濯  
洗張ゆのし  
東田辰藏  
黃州城內

俗語  
川柳「狸」  
次回物は付「登さそて来かいは」

同	阿	阿
十二日	九日	八日
向	時	同
十二日	十一日	九日

祝黃州之發展  
丁寧親切  
御旅館都屋  
宿泊料大勉強

<p>同 李寧九</p>	<p>祝黃州之發展</p> <p>京義線黃州</p> <p>上野長吾</p>	<p>祝黃州之發展</p> <p>黃州</p> <p>果樹組合</p>	<p>祝黃州之發展</p> <p>精肉卸小賣 撫順炭特約 天然冰卸小賣</p> <p>黃州邑內</p>
--------------	--	-------------------------------------	---

石井果樹園

祝黃州之發展

黃州濟衆醫院

院主 李載煊  
醫師 李東熙


祝黃州之發展

京義線黃州

一週間以内に別券發見通告者には五十錢を贈券を呈す(但何番何號を明記に限る)

朝鮮興業株式會社黃州支店

小林靜



最上醬油

東京本町三丁目

田中支店釀造

電話七六四番

酒

品質無双

造吟

萬甲

種各

店支

(番)

# 祝黃州之發展

黃海道黃州郡

片倉組農場  
片倉組林業部

# 祝黃州之發展

清灰無良醇

無害衛生

黃州郡協贊會

首藤合名會社

白米印賣キ  
精ボツサ  
油  
シ  
三  
各  
種

朝鮮發賣元

首藤京城

金貨町(電話一七一)

祝黃州之發展

黃州郡廳員一同

三郡聯合物產品評會

[illegible]















見物席父兄の大悦びたのしみ泣なながら勝つ

口父兄の人々にて満場す維の  
餘なく天井に飾られたる蔵成美と  
見物席のリボンの色とは何れも美し  
き詰めであつた。試合は先づ陣之内  
師範の仕太刀に、少年錦穿山田龍男君  
の打太刀にて、帝國劍道型を試み、東に  
親山道武術部部員第四十餘名の勇挺

「高等女學校」の親の白練一  
つけたる袴に面小つつけて勇戦す  
など勝負はお終ひの西村、前髪龍  
に至るまで何れも非常な面白かつ  
つた、次いで、妳年錦士郎の榎林仕合  
は林義樹少年が四人を抜いたのと、  
松崎氏の令息が五人を薙ぎ倒したた  
が、怪物、殊に山田少年と戦つて竹

午後一時除幕式を行へり

●雲右衛門危篤  
 衆の皆桃中軒雲右衛門病氣危篤  
 陥れりこの報あり（大段電）

●漢江の鐵橋か  
 二十一日より西谷門町の基下宿屋  
 前泊しつは長谷川町の基飯食店  
 下女奉公したるものにて三日夜

郡富秋村生れの小島武雄（二

城本町二丁目某能店員故早稲坪  
 郡富秋村生れの小島武雄(三)は三  
 午後十時頃四週の一環を破れて  
 無斷家出して行衛不明と  
 たり之が爲め家人及び關係者は  
 驚きをなした方を手配せしも一兩  
 掛りなく其筋にも搜索願ひをなし  
 出ずとあり

などと言ふ誇張した感嘆

燃んに、無慘な變死、血嘔吐、窒  
 などいふ言ひ誇張した威嚇的の語  
 して居る程に、舟は七子島を距る  
 七子島と言ふのは遊物主が  
 下敷を拂つた土塊が島になつ  
 ても言はねば適當の形容詞が  
 程左様に小さい島が七つ並んで  
 小群島である、我々が悟度此島  
 付いたと思ふ頃はひそか暗潮、  
 押し寄せないで、多い時は浮揚つて  
 、少ない時は潜水服で締められ  
 死んで了ふなど種々の注意をし  
 莫れな、僕は先刻の語丈でもい  
 加減不安と恐怖に脅やかされて臆  
 かも知れぬが諸君は好奇心に驅ら  
 たのを悔んで見た、そしていざ海  
 底で宙返をして血嘔吐を吐かれ  
 ならぬかと思ふと恐怖と戰慄と等  
 肉は妙に緊縮し

循して仲々進まぬ、目的の

船は激しく動揺するのみで一所に  
徘徊して仰々進まね、目的の島が目  
の間に逼つて居り乍ら、此れに近  
き得ぬ位然れつたいものはない  
、それでも助さん達は平氣で櫓を  
いいて居る、海に乘じ

## 順風に送られ

時は一時間を要せる運程を四五時  
の後幸ふじて島に著くと流石の助  
も疲れたらしく例の荒削りの毛

れ噛みしめた齒の根は意地悪くカ  
ツツく「さ早く進るなら遣らねわ  
波が荒れて替れなくつちまじり  
さんは委細はち根つこの様な手  
僕を引張り寄て潜水器具を強制的  
著け始めた、最早斯うなつては絶  
絶命だ、一步失敗て土左つたら魚  
師食となるまでだと今考へると滑  
に思はれる程一生懸命に臨田に力  
盡て觀念の旗を固め乍ら胴の周圍

言ふ段取になると助さんは

さんで済まして、愈々僕が海に入  
 る言ふ取敢になる。と助さんは起き上  
 へ「滑へ入つてから氣を落ちつけ  
 と呼吸がはさんで吐吐から氣を  
 つけね」ととか「信綱は、足が下  
 ついたら一つ、綱が延び過ぎたか  
 ら、綱を緩べ」と言ふ時は二つ、海鼠の袋  
 下るせと言ふ時は三つ、魚を突く  
 下るせが四つ、上に引上げると  
 場合が連続に引くのだ」とか々



何れも發賣禁止と

ある内小宮陸左に差して寄り進玉が矢小隊際に残さんと差を突き合ひ左差となるを宇都右手に拘ひ押進み黒が拘ひ技を打たんとする落がせ倒して宇都の勝

合せて、大開の取口、柿山に大辻は左四  
高々と吊り出し、柿山の勝、二瀬  
に黒瀬川は二瀬左を差して一氣に  
り立してし時は黒瀬川渡危かりしが  
して左四とさなるや黒瀬強引に吊  
進み吊り出す際二瀬鼻血出でした  
痛み分けとかる

▼松の音に綾川  
は松素早く二木差となり寄るを繰  
して、首投を打たんとせしが松發

製せし厥其後策につき金海郡督

**東西合併大相撲**

（上）  
錦旗、開利八五郎が「本阿弥井生」に優勝  
敗れて居る後援者にき金銀證書記三首等  
見の場、九月七、同様に大勝打つて水  
は四日、法院に於て開利八五郎に理取  
として罰金五十圓の判決ありたり

△申入後

は力の入りし大相撲▽大錦に荒者  
左四ツ頗る簡単に陥り出して錦の威光を失  
▽西の海加古川  
は左四ツ両石上手に如古の脇裨を奪  
きつけ寄り倒して勝  
△申入後

時ヶ嶽に岩木山は時の突いて出るゝ廻り  
ナを岩木敵の左手を手揉みて廻り  
み時の慌てるところを踏さず突き  
して勝

▼千舟川に釋迦ヶ嶽  
は千舟立より手様右手に釋迦の若  
参りて身置なりとす

魚の如し

勝 負 勝 負  
 花菱 玉手山 太刀 五十嵐  
 島洋 朝風 男 島預朝日嶽  
 見崎 鳳車 成瀬山 鴨岡岩  
 泉 龜鶴山 逆 鉾 小若島  
 砲 一 港 宮木山 敷島  
 矢 瀬日山 紅葉川 駒ヶ嶽  
 糸 瀬日山 紅葉川 駒ヶ嶽

糸にて大入風を至したり當日  
 勝負及び其の手捌き六日目の取組  
 の如し

対馬洋に朝日山  
 一合して左四ツ朝日金剛力に寄添  
 對馬右上手を引いて残しつつ十  
 際に廻り込みつゝ打ちたる上手持  
 極まり對馬の勝にて午後五時打出  
 たり

△六日目取組 飯友大  
 玉の首 朝日嶽 小若島 小  
 港 荒玉 大町岩 成瀬山

駒ヶ嶽 逆海山 逆鉾 大砲 島嶼 紅葉川

○ 若 杉木山（たけのこ）

[illegible][illegible]



